

美々津中学校便り



文責：鈴木利明（校長）

昨年と同様コロナ禍の中、新しい年が始まりました。昨年は、コロナ禍の中で新しい生活様式のもと、様々な学校での行事を実施してきました。本年も同様に、コロナへの感染防止をしながら、行事を行っていかうと考えております。

さて、元旦から3日にかけて、社会人と大学生の駅伝が行われました。ニューイヤー駅伝と箱根駅伝です。一本のタスキをチームが一つになって繋いで行きます。登録メンバーに選ばれなかった部員は、給水やマッサージ、声を掛けるなど、一人一人が自分に与えられた役割を責任を持って行います。走っている選手は一人でも、背負っているのは、チームだけではなく応援をしていただくたくさんの想いもあるのだと思います。駅伝が人気なのは、このように、一人一人にもチームにも素敵な物語があるからだだと思います。そして、走っている選手もチームを影で支えているスタッフも一生懸命なのが伝わってきます。今年もたくさんの感動がありました。

そして、もう一つ駅伝を観ていて凄いと感じたことがあります。それは、駅伝の実況中継です。スタートする前からゴールした後まで、中継のスタッフが一つになってテレビで観ている人、ラジオで聞いているリスナーに分かるように伝えていることです。その情報を準備するのに計り知れない時間と労力がかかったはずですが、レースが始まるとスポーツの世界ですので、どんなことが起きるか分かりません。先頭を走る選手ばかりではなく、第2集団、第3集団等の中継も行います。選手の出身地やエピソードもよく調べているなど感心させられます。中継やレポートをするアナウンサーや解説者とのバトン回しもさすがだなと感じました。

今回優勝した青山学院大学の原晋監督は、自分の著書『勝ち続ける理由』の中で書いています。

「打倒、青学」で闘志を燃やして向かってくるので簡単には勝たせてもらえない。だからといって、箱根駅伝に向けて練習量を増やし、猛練習で鍛え直すのではなく、当たり前のことを当たり前にするのが重要だと私は選手たちに説いた。

そして、こんなことをミーティングで話しています。

「練習は計画通り進めていく。ウォーミングアップしかり、体操しかり、食事しかり、君たち自身の準備とこだわりがあるだろう。試合に行くときもしかり、遠征に行くときもしかり。準備とこだわりを忘れないようにしてくれ」

当たり前のことを当たり前にするのは難しいことではなく、やるべきことをやったことが優勝につながったと思う。

一般的に、当たり前のことを当たり前にする事が難しいと思われています。学校でも、当たり前の事を素晴らしくしようと日頃から取り組んでいます。この当たり前のことを当たり前にする事も大事ですが、結果を出すためには、準備とこだわりというところが大きな鍵になっているのだと思います。「準備」には力があるという話は、これまでも書いてきました。しかし、「こだわる」ということの奥の深さが必要なのだと思います。こだわるというのは、ぶれないものを持つということです。心がぶれなければ、目の前の壁は扉に変わります。同様に当たり前のことにもこだわりをもって生活していくことが、人として成長し続けることにも繋がっていくのではないのでしょうか。

私達は、今までトップアスリートの活躍を見たり、言葉を聞いて勇気や元気をもらったりしてきました。これからも同じように、勇気や元気をもらって行動するはずですが、これからは、表面的に見えることだけでなく、トップアスリートの瞳の奥にあるものを感じてほしいと思います。一人一人の見えない準備とこだわりは、必ず、誰かが見ていて支えてくれる人が現れます。そして、それが、チームとなっているはずですが、このように応援される事というのは、そのアスリートが積み上げてきた人間性が生み出したものではないのでしょうか。

これから、一年がスタートします。どんなドラマがこれから待っているのかとても楽しみです。そして、そのドラマの主人公であっても、脇役であったとしても準備とこだわりの意識を高めていきましょう。

新春凧揚げ教室

令和4年1月7日 実施



日向市南部地区凧揚げ大会が中止となり、学校で凧揚げ教室を実施しました。甲斐政夫さんの指導で創った凧を揚げました。風が弱くなかなか揚がりませんが、それでも、風を拾って高く揚げた子ども達や凧を持って走って一生懸命に揚げようとしている姿が印象的でした。美々津で歴史ある凧揚げができたことに感謝しています。



食育出前講座

新名巳枝さん (美郷町役場)
壹岐亜沙都さん
(老人ホーム若宮荘)

食育指導を1年生にさせていただきました。特に、飲料水に含まれる糖分について、摂り過ぎに注意し、日頃から意識した健康管理が大事だと気が付きました。



いつ起きるか分からない自然災害・・・

深夜の津波注意報
深夜の地震 (震度4)

1995年(平成7年)1月17日5時46分52秒、兵庫県の淡路島北部(あるいは神戸市垂水区)沖の明石海峡を震源として、マグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生しました。世にいう阪神・淡路大震災です。早朝の暗い時間でしたので、まだ眠っている人も多くいました。その時、地面から突き上げられるような、誰もが経験したことのない大きな揺れを感じました。そして、高速道路は倒れ、ビルは崩壊し火災も発生しました。

私は地震が発生する12時間前(16日の夕方)に神戸の港にいました。神戸からカーフェリーに乗って日向に帰るためです。地震の事を知ったのは、フェリーの中でテレビを観た時です。携帯電話もまだまだ普及していなく、誰もがフェリーの公衆電話からかけていましたが、繋がることはありませんでした。神戸を出航するときに、フェリーの甲板上で、街の夜景をバックに写真を撮りました。震災の前夜の夜景です。その写真は、いまでも机のシートに挟んで見えるようにしています。

先日の週末、立て続けに津波注意報と地震が発生しました。たぶん、たくさんの方が身を守るために何らかの行動をとったはずですが、津波被害が多い三陸地方では「津波起きたら命てんでんこだ」と伝えられてきました。これは「津波が起きたら家族と一緒にいなくても気にせず、てんでんばらばらに高所に逃げ、まずは自分の命を守れ」という意味です。ここ数年、気象庁では「今までに経験したことのない」という表現が多く聞かれるようになりました。昔から「備えあれば憂いなし」ということわざがあります。前もって準備を整えておけば、いざというときに何か事が起きても心配無用であるということです。

今回の深夜に起きた二つのことで、被害がなかったわけではありません。近くで被害がなくても、どこでいつ起きるか分からないのが自然災害です。何があっても慌てないでいいように、日頃からの備えを今まで以上にアンテナをはっておく必要があると強く感じました。



【救命胴衣を廊下に出しました】

☆学校の様子やこれからの予定につきましては、美々津中学校ホームページをご覧ください。